



## 1 リード文

### 【この章の目的】

第2章の社会・経済情勢の変化への対応

第4章の基本目標の実現、特に第6章の重点戦略の展開を都市空間の面から支える



第3章の都市像を実現する将来の都市空間の在り方を示す

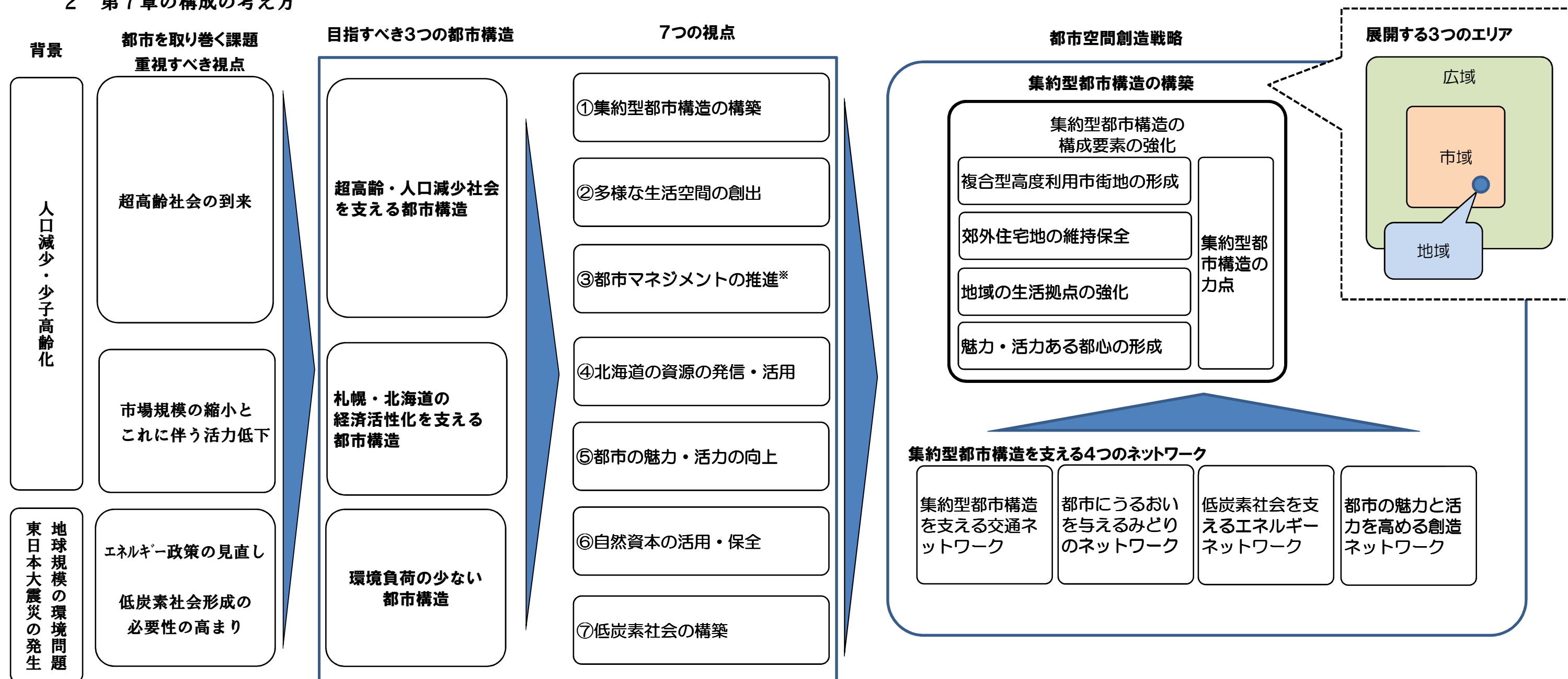
### 【目標年次の考え方】

20年を超える長期的な視点から見た今後の都市づくりの方向性を打ち出す（第1節）



その上で、この先10年間の都市づくりの在り方について記載（第2節）

## 2 第7章の構成の考え方



※ここでの「都市マネジメント」とは、まちづくりを進める上で、様々な主体と連携しながら、多様な資本による投資を組み合わせるまちづくりの目標を達成する手法、としています。

## 第1節 長期的な視点から見た目指すべき都市構造



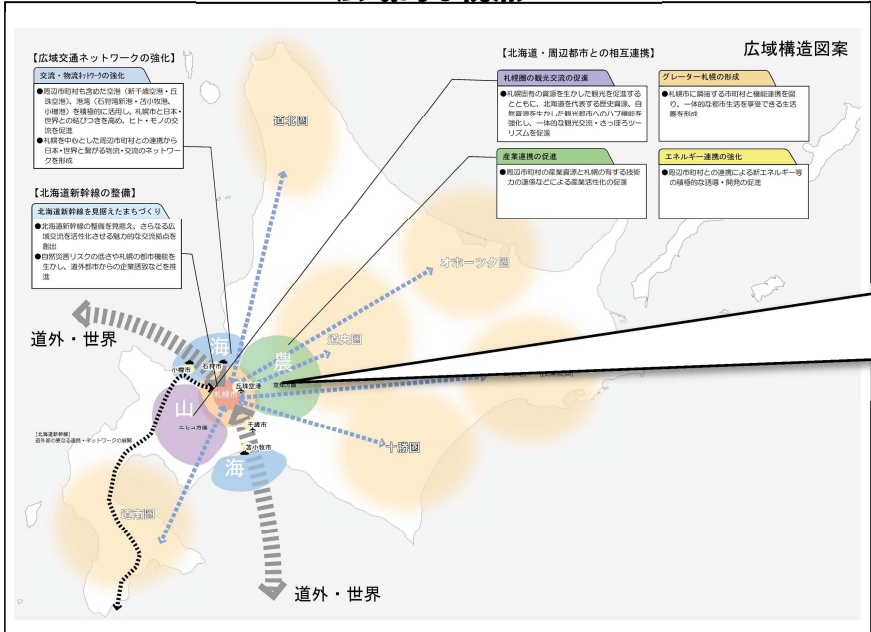


## 2 節 都市像の実現を支える都市空間の在り方

## ■展開する3つのエリアの都市空間の在り方

長期的な視点から見た目指すべき都市構造を見据え、10年間の都市づくりの方向性を示す。札幌市全体の視点に加え、広域的な視点、地域の視点からの都市空間の在り方を示す。

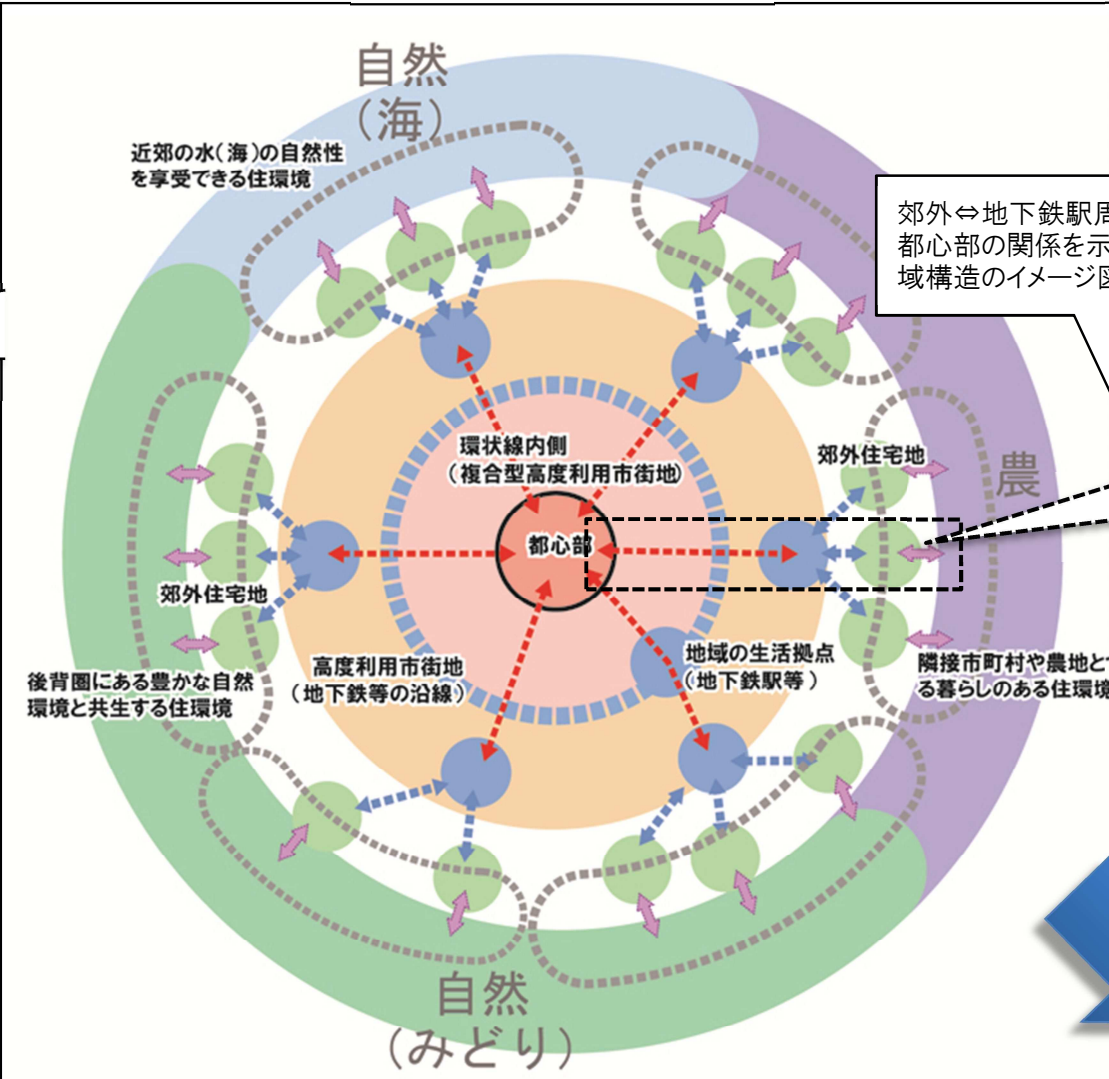
## 広域的な視点



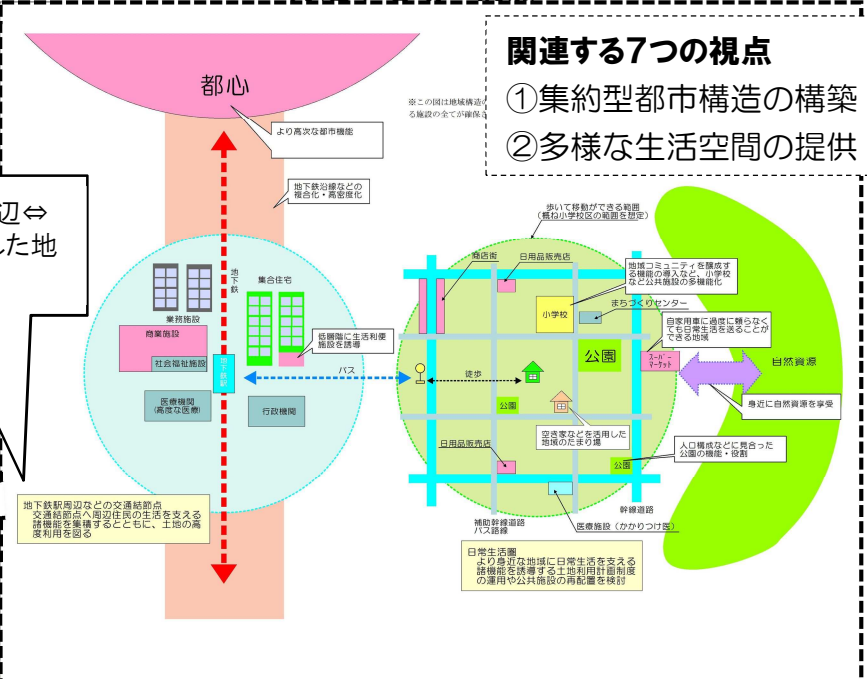
## 関連する7つの視点

#### ④北海道の資源の発信・活用

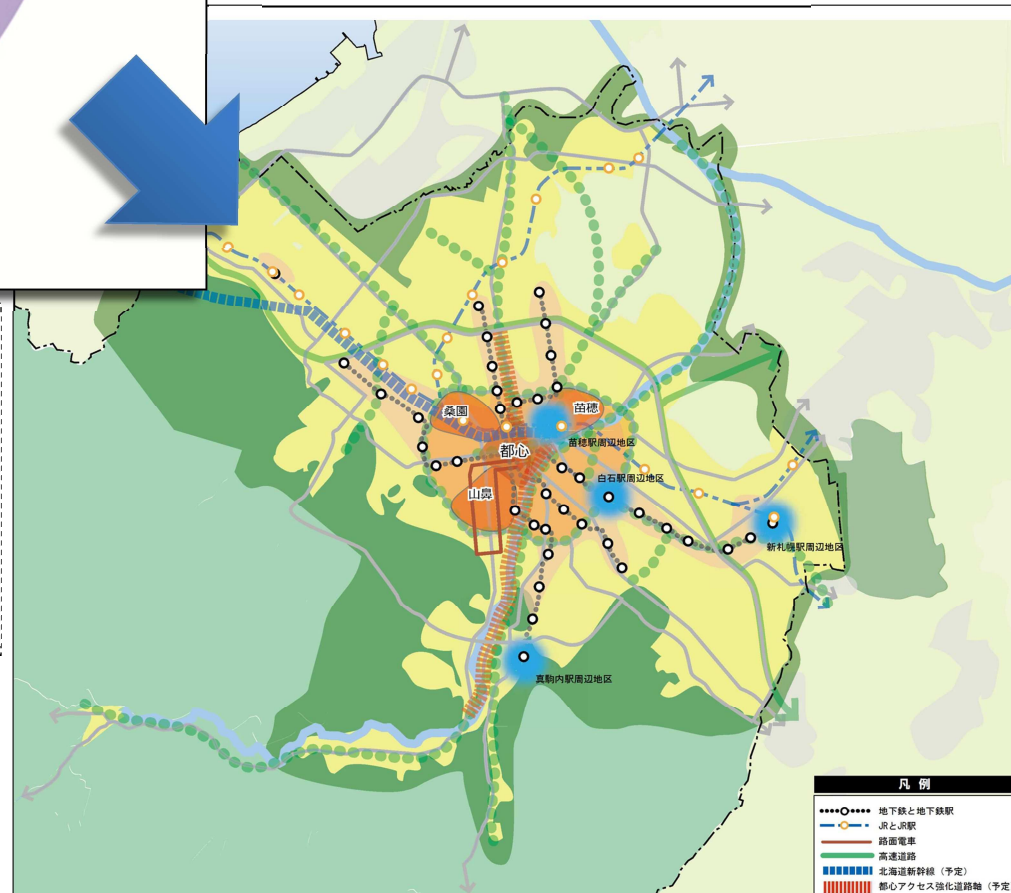
## 札幌市域の視点(概念図)



## 身近な地域の視点



## 札幌市域の視点(都市構造図)



## 関連する7つの視点

- ①集約型都市構造の構築
- ②多様な生活空間の創出
- ③都市マネジメントの推進
- ⑤都市の魅力・活力の向上
- ⑥自然資本の活用・保全
- ⑦低炭素社会の構築



**広域的な視点**

# 広域構造図案

## 【北海道・周辺都市との相互連携】

## 【広域交通ネットワークの強化】

## 交流・物流ネットワークの強化

- 周辺市町村も含めた空港（新千歳空港・丘珠空港）、港湾（石狩湾新港・苫小牧港、小樽港）を積極的に活用し、札幌市と日本・世界との結びつきを高め、ヒト・モノの交流を促進
- 札幌を中心とした周辺市町村との連携から日本・世界と繋がる物流・交流のネットワークを形成

## 【北海道新幹線の整備】

## 北海道新幹線を見据えたまちづくり

- 北海道新幹線の整備を見据え、さらなる広域交流を活性化させる魅力的な交流拠点を創出
- 自然災害リスクの低さや札幌の都市機能を生かし、道外都市からの企業誘致などを推進

札幌圏の観光交流の促進

- 札幌固有の資源を生かした観光を促進するとともに、北海道を代表する歴史資源、自然資源を生かした観光都市へのハブ機能を強化し、一体的な観光交流・さっぽろツーリズムを促進

## 産業連携の促進

- 周辺市町村の産業資源と札幌の有する技術力の関係などによる産業活性化の促進

## グレーター札幌の形成

- 札幌市に隣接する市町村と機能連携を図り、一体的な都市生活を享受できる生活圏を形成

## エネルギー連携の強化

- 周辺市町村との連携による新エネルギー等の積極的な誘導・開発の促進

## 骨子(案)

## 北海道の中の札幌の位置づけ・役割

### 【北海道・周辺都市との相互連携】

- 札幌市には高次な都市機能が集積しています。これらの都市機能を道内他都市ひいては北海道全体の発展の為に効果的な活用を図ります。
- 札幌が道内他都市の持つ観光や農業などの資源を活用することは、札幌の発展にもつながります。
- 札幌市の国際経済交流や集客交流産業の強化により、観光客の誘致、MICEの振興、経済投資の拡大などを通じて、一層の波及効果を道内へ広めていくことにつなげます。
- 札幌や北海道が経済、文化、環境などの領域でネットワークを強化していくことが重要になっています。
- 周辺都市への雇用の場の創出、フード特区の活用などによる経済的連携、広域的な再生可能エネルギーの普及促進による脱原発依存の推進、エネルギー供給の多重性・代替性の確保など、市域を超えた広域的な連携の強化により、周辺他都市との相互発展を目指します。

### 【広域交通ネットワークの強化】

- このような広域的な連携を強化するためには、日本海側と太平洋側に**3港湾（小樽・石狩・苫小牧）**、**2空港（新千歳・丘珠）**が立地・隣接している優位性を生かし、これらとのアクセス性の向上を図るため、既存の道路ネットワークを有効活用、**都心へのアクセスを強化する道路軸の検討**、周辺的生活環境に配慮しながら、**丘珠空港の機能向上の検討を進めます。**

### 【北海道新幹線の整備】

- 北海道新幹線の整備を見据え、東北地域との連携・交流の促進、自然災害リスクの少ない地勢を生かした本州企業の誘致など、その活力を札幌・道内全体に展開させていくために、東アジアにおける北の一大交通拠点としての札幌駅周辺のまちづくりを進めていきます。

都心

地下鉄沿線などの  
複合化・高密度化

低層階に生活利便施設を誘導

商店街

日用品販売店

地域コミュニティを醸成する機能の導入など、小学校など公共施設の多機能化

まちづくりセンター

自家用車に過度に頼らなくても日常生活を送ることができる地域

を引用した

人口構成などに見合った  
公園の機能・役割

医療施設（かかりつけ医）

日常生活圏  
より身近な地域に日常生活を支える  
諸機能を誘導する土地利用計画制度  
の運用や公共施設の再配置を検討

地下鉄駅周辺などの交通結節点  
交通結節点へ周辺住民の生活を支える  
諸機能を集積するとともに、土地の高  
度利用を図る

○そして、この都市構造を支えていくため、地域と様々な機能をつなぐ公共交通の利用促進を図るとともに、地域が主体となった、コミュニティを支える交通の仕組みの検討を進めます。

## 自然資源

身近に自然資源を享受

6



## 札幌市域の視点

### 骨子(案)

#### 検討段階資料

#### 都心

- 様々な機能やサービスが集積し、絶えず国内外からの活動が展開されており、国際都市として質の高い活動や生活の場として発展していくことが必要です。
- 高次な都市機能の更なる集積を図るとともに、交流拠点などの骨格構造の形成や、民間開発と一体となった地上・地下のオープンスペースの整備・活用などを通じ、新たなにぎわいや回遊、交流を創出し、札幌の魅力と活力の向上を先導していきます。
- エネルギー有効利用都市のモデルとなる取組を展開するほか、災害に強いまちづくりを促進します。
- 将来的な人口減少を見据えたコンパクトな都市構造の実現に向けて、業務や商業機能等の集積にあわせ、都心に相応しい居住機能の適正な誘導について検討します。
- 特に、創成川以東地区は、居住を中心に業務・文化・娯楽などの機能が近接した複合型のまちづくりを促進します。
- 地域特性を重視し、地域が主体となったエリアマネジメントの取組を推進します。

#### 地域の生活拠点

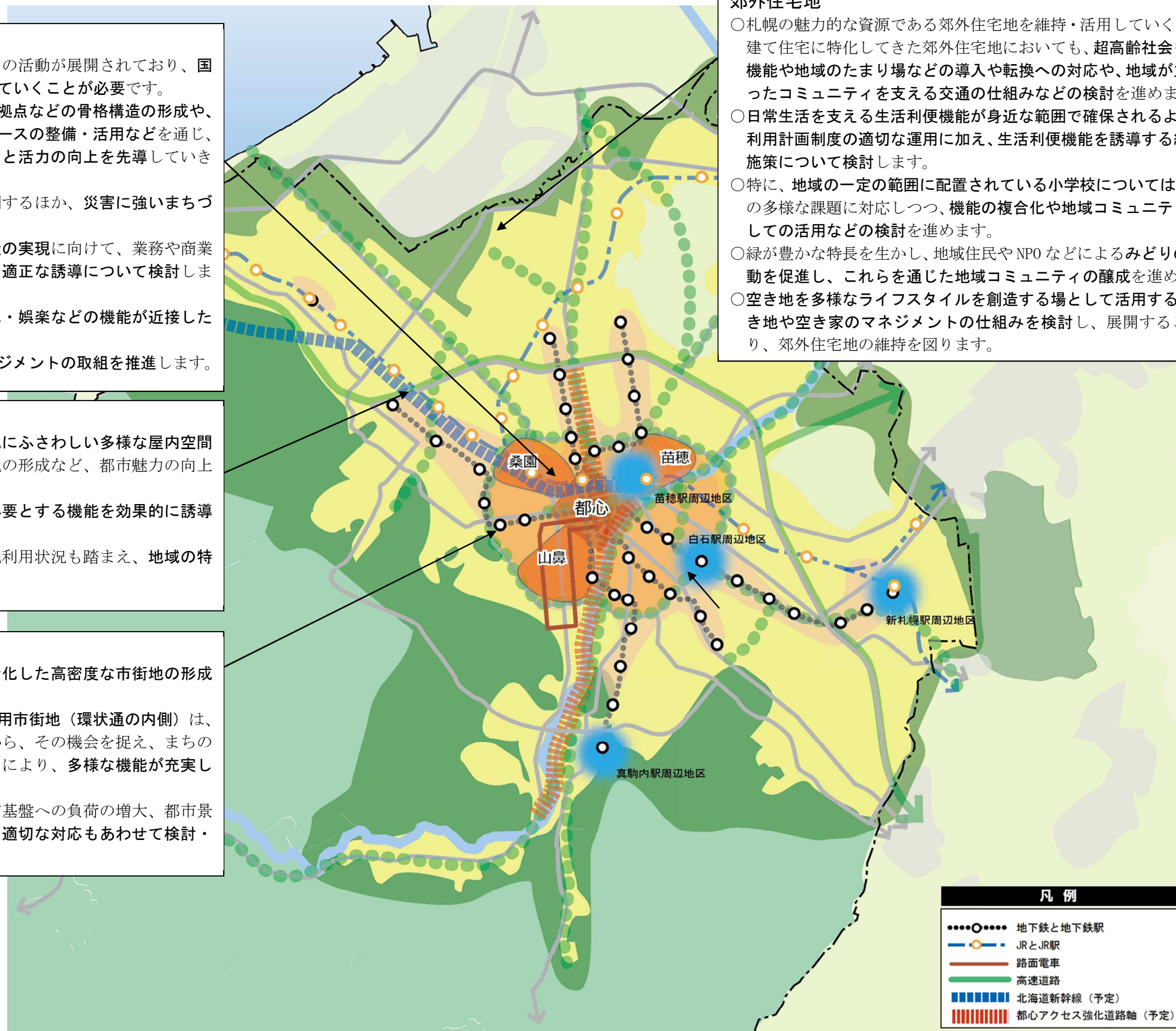
- 周辺住民の生活を支える機能の誘導、多雪・寒冷地にふさわしい多様な屋内空間や豊かなオープンスペースの創出、美しい都市景観の形成など、都市魅力の向上のための空間整備を進めます。
- 地域の課題やニーズを踏まえ、それぞれの地域が必要とする機能を効果的に誘導していく取り組みを進めます。
- また、道路など基盤の整備状況や地形、周辺の土地利用状況も踏まえ、地域の特性に応じた生活拠点の形成を図ります。

#### 集約化を図る高度利用市街地

- 都心周辺部や大量公共交通機関の沿線に機能が複合化した高密度な市街地の形成を目指す。
- 特に、古くから市街地を形成してきた複合型高度利用市街地（環状通の内側）は、今後、活発な市街地更新が進むと考えられることから、その機会を捉え、まちの魅力や活力を向上させる良好な開発を誘導することにより、多様な機能が充実した高密度な複合市街地の形成を図ります。
- 集約化の過渡期には、既存の住環境への影響、都市基盤への負荷の増大、都市景観の変化など、様々な影響も考えられることから、適切な対応もあわせて検討・実施していく。

#### 郊外住宅地

- 札幌の魅力的な資源である郊外住宅地を維持・活用していくため、戸建て住宅に特化してきた郊外住宅地においても、超高齢社会を支える機能や地域のたまり場などの導入や転換への対応や、地域が主体となったコミュニティを支える交通の仕組みなどの検討を進めます。
- 日常生活を支える生活利便機能が身近な範囲で確保されるよう、土地利用計画制度の適切な運用に加え、生活利便機能を誘導する総合的な施策について検討します。
- 特に、地域の一定の範囲に配置されている小学校については、地域毎の多様な課題に対応しつつ、機能の複合化や地域コミュニティの場としての活用などの検討を進めます。
- 緑が豊かな特長を生かし、地域住民やNPOなどによるみどりの創出活動を促進し、これらを通じた地域コミュニティの醸成を進めます。
- 空き地を多様なライフスタイルを創造する場として活用するなど、空き地や空き家のマネジメントの仕組みを検討し、展開することにより、郊外住宅地の維持を図ります。





札幌市域の視点

骨子(案)

集約型都市構造を強化する力点

○地域の生活拠点に加え、地域・経済・環境の視点から、特に重点的に整備を進める必要のある拠点を以下のとおり設定します。

…集約型都市構造を強化する力点

北海道新幹線の札幌延伸を見据えたまちづくり

○北海道新幹線の整備を見据え、札幌駅交流拠点を中心に道都札幌の玄関口にふさわしい顔づくりに向けた取り組みを展開する。

白石駅周辺地区

○区役所新設を契機とした地域の生活拠点の利便性・魅力向上、創造性の発信などに資する開発のモデル地区として、行政機能の他に、生活利便機能や市民の創造的活動の場の創出や、駅施設の利便性の向上を図る。

真駒内駅周辺地区

○大規模な土地利用転換を契機に、既存資源の有効活用による低炭素都市づくりや、地域の日常生活を支える地域の生活拠点にふさわしいまちづくりを推進する。

新札幌駅周辺地区

○大規模な土地利用転換を契機に、既存資源の有効活用による低炭素都市づくりや、隣接都市を后背圏に持ち、多くの人々の日常生活を支える地域の生活拠点にふさわしいまちづくりを推進する。

都心アクセス機能強化道路軸

○創成川通の機能強化及び豊平川通の延伸といった都心へのアクセスを強化する道路軸の検討を進めます。

苗穂地区

○豊平川の水辺環境や都心との近接性、交通利便性の高さ、地域の産業資源などを活用しながら、居住機能の充実、集客交流産業の育成、オープンスペースの創出、歩行者ネットワークの強化、環境負荷低減の取り組みなどを進め、産業文化・交流地区の形成を目指す。

凡 例

- 地下鉄と地下鉄駅
- JRとJR駅
- 路面電車
- 高速道路
- 北海道新幹線（予定）
- 都心アクセス強化道路軸（予定）



## 札幌市域の視点

## 骨子(案)

## 検討段階資料

### 低炭素社会を支えるエネルギーネットワーク

- 災害に対する安全性を高めるとともに、環境への負荷低減を促進するため、特に都市の中核機能が集中し、エネルギー消費の大きい都心部において、電力と熱を効率的に供給するシステムが計画的に配置された自立分散型エネルギーネットワークを推進します。
- 熱供給に関する既存のインフラが整備されている地域における市街地更新の際には、既存インフラの効果的な活用を図ります。

### 都市にうるおいを与えるみどりのネットワーク

#### イ みどりの保全・創出

##### (ア) みどりの役割

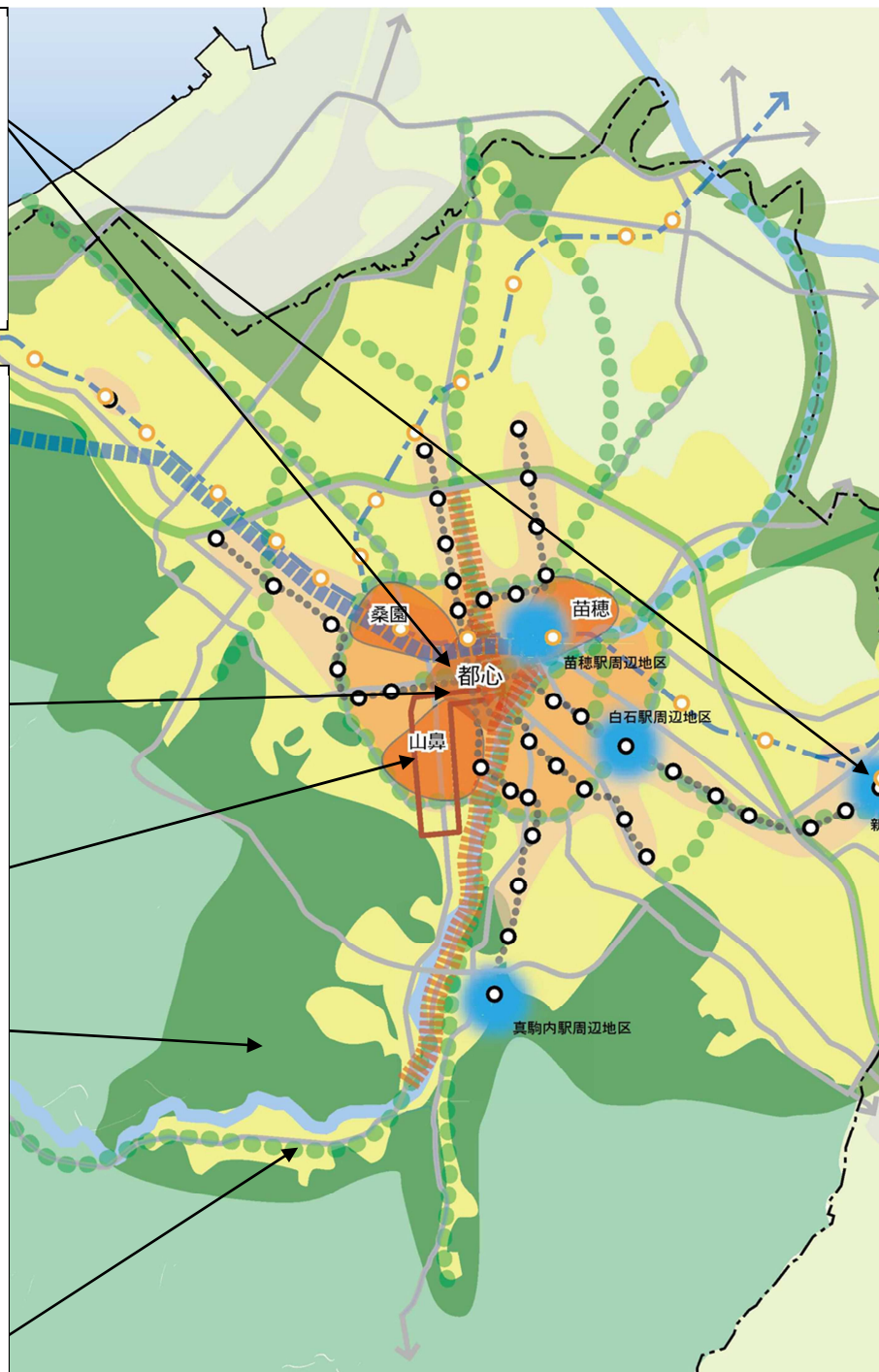
- 都市のみどりが持つ機能は、生態系の保全や大気の浄化のほか、避難・レクリエーションの場など様々。
- 今後は、地域ごとの課題やニーズに配慮しながらみどりの機能の重点的配置・保全・維持管理を進めることが必要となる。
- (イ) 市街地のみどり
- 都心部では、「札幌の顔・風格」「にぎわいを演出」をみどりの大きな役割として捉え、北海道の大自然の象徴としてみどりづくりを官民の協働により進め、都心の魅力を向上、経済的発展、市民生活の質の向上を支えます。
- 市街地では、社会的ストレスの緩和に効果のあるみどりの効果的配置・整備及び維持管理を進めます。また、コミュニティ醸成・強化に寄与するみどりづくりを行います。
- 既存の公園においては、少子高齢化により変化したニーズに対応するためレクリエーション機能の再編を進めます。

##### (ウ) 市街地の外（市街化調整区域）のみどり

- 森林については水源の涵養や災害防止、アメニティの充実といった機能を十分発揮させるための機能林の設定や管理・保全手法の検討・実施を行います。
- 生物の生息環境確保やCO2削減を意識した保全・維持管理の検討もあわせて進める。これによる発生材は、資材などの有効利用を図るとともに、バイオマスエネルギーとしての利用を含めた検討も行います。
- 都市環境や地球環境保全のため、ごみ埋立地を利用した拠点公園緑地の創出とともに、みどり創出保全と太陽光発電など創エネルギーの場が共存できる緑地整備の検討を進めます。

##### (エ) 骨格的なみどりのネットワーク（コリドー※）

- 河川などのコリドーを中心に、樹林地の保全や緑地の整備によりみどりのネットワークを形成し、生物の生息場所や移動空間を確保します。  
※コリドー：市街地を貫通し、都市にうるおいをもたらすオープンスペースの軸となるもの



### 集約型都市構造を支える交通ネットワーク

- 公共交通を軸とした交通体系の確立、適切な自動車交通の実現を目指します。
- 市民生活の基盤となる「地域の足」を確実に確保していくため、地域の特性に応じた持続可能な公共交通体系を確立し、利便性と効率性を兼ね備えた公共交通ネットワークを構築するとともに、市民一人ひとりが過度の自動車利用を控え、公共交通を皆で支える意識を醸成し、地下鉄や路線バスなどの利用促進を図ります。
- 路面電車は、路線のループ化とともに、既設線の機能向上や景観性の向上など、まちづくりと一体となった取組を進めます。また、将来の需要見込み、地域の特性等を考慮して、「都心」「創成川以東」「桑園」の3地域を延伸検討地域とし、経営面などの課題解決を図りながら、まずは都心地域への延伸実施を具体的に検討します。その他の地域については、各種のまちづくり計画や再開発と連携を図りながら検討を進めます。
- 骨格道路網については、既存の道路を有効に活用しつつ、必要な幅員が確保されていない道路の整備や、創成川通の機能強化及び豊平川通の延伸といった都心へのアクセスを強化する道路軸の検討を進めます。
- 自転車は利用が見込まれる一方、歩道環境や景観の悪化を招く要因にもなっています。「自転車走行空間の明確化」、「総合的な駐輪対策」、「ルールやマナーの効果的な周知と啓発」の取り組みを推進し、魅力的なまちづくりにつながる安全な自転車利用環境の実現を目指します。
- 都心部では、まちづくりを先導する交流拠点間を、地上・地下の多様性に富んだ空間によってネットワーク化することで、四季を通じた安全で快適な回遊を支え、にぎわいある街並みを実現していくことが求められています。既存地下空間の活用や、民間開発と一体となった地下の広場空間の拡充により、回遊ネットワークを強化するとともに、地上・地下が一体となったにぎわいの創出を図ります。

### 都市の魅力と活力を高める創造ネットワーク

- 特に都心部では、グローバル化を見据えた24時間対応可能な高次都市機能の充実を図ることにより、創造活動の拠点となる場の創出や、産業創造・人材育成を支えます。
- 都市にやすらぎやうるおいを与えるみどり、都市のアクティビティの場となる良好な空間といったオープンスペースと、これと関連する都市機能、オープンスペースや街並みと調和した都市景観が重要となります。
- 個々の敷地や建物が、周辺の景観や歩行者空間のネットワーク、にぎわいの連続性などを一体として捉えた魅力的な都市空間を構成する一要素になることから、建築計画における良好な景観やオープンスペースの創出などを効果的に誘導します。
- 既存のオープンスペースを活用、民間による創出を含むさまざまな機会をとらえ、オープンスペースを確保します。
- まちの魅力づくりに貢献する場合には、積極的なオープンスペースの活用を図ります。
- 市内に点在する「創造都市さっぽろ」を象徴しうるエリアは、多くの市民や観光客が集い、創造的な活動が活発化されるよう、それらの魅力を高める取り組みの検討を進めます。